

▶石仏



「五字神社」の森を右手に見て東に進んで行くと、巡礼道は府道茨木能勢線と交わって、約50mほど消滅した後、府道の北側で復活します。復活した道を進んでいくと、すぐ左手に小さなお堂があります。お堂の中には、巡礼を見守るように、石仏が座っています。石仏の台座には、寛保2(1742)年と寛延2(1749)

巡礼道 (勝尾寺・総持寺) ④

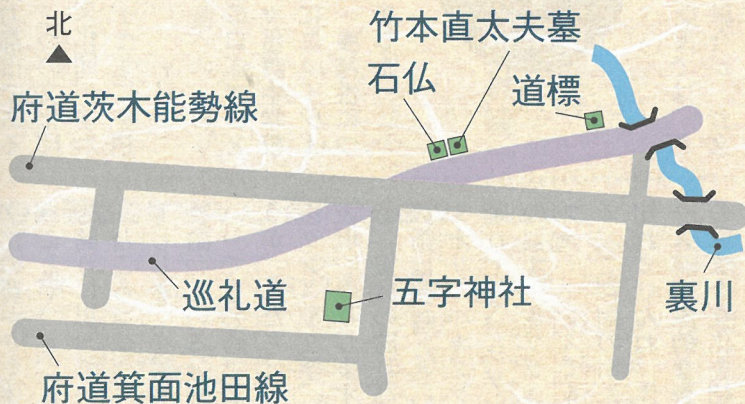
古道を訪ねて ③②



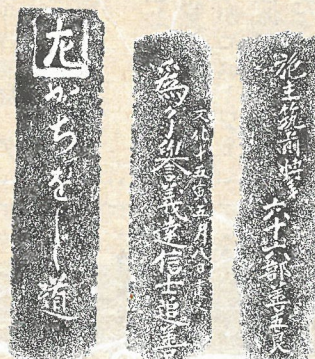
▲竹本直太夫墓

749)年の2種類の年号があるため、この台座が本来のこの石仏のものであったのか疑問が残ります。また、お堂の右側には「竹本直太夫墓」と刻まれた、天保12(1841)年建立の立派な墓碑があります。本市と同じ北摂に位置する能勢町では、約200年前の文化・文政の頃から受け継がれたきた「能勢浄瑠璃」があり、町内の各地に「太夫(家元)」の石碑が100基余りあることから、ここにある「竹本直太夫」の碑は、粟生間谷地区ゆかりの浄瑠璃関係者のものである可能性が高いと思われます。

竹本直太夫の墓から、旧道を東に80mほど進んで行くと「裏川」の手前に石仏や「青面金剛」の石塔、道標などが集められている場所があります。正面に「左かちおじ道」と刻まれている道標の左面には、文化十五寅五月八日建立(1818年)の建立年月日と亡き人の戒名(拓本参照)、裏面には「施主筑前博多十六部 善五良」と施主の名があります。六十六部とは、全国の霊場に法華経を治めるために、遍歴する修行僧ですが、この道標は、遙か遠い筑前博多(現福岡県)の六十六部が亡



▶道標(拓本)



き人の供養と旅人の巡礼の安全を祈って建立したものです。